日本武尊

yamatotakerunomikoto

神前結婚式

一日一組だけの特別な記念日

PHOTO : KIE UNIVERSE LLC MODEL : Shinwa / EMOR

七五三

【ご祈祷のお申込みについて】

○受付時間　午前八時～午後四時
（予約の必要はございません。）

○祈祷料　五千円。

安産祈願や厄年祈願など、その他各種祈祷をご受付しております。ご家族お揃いでご来社ください。

○出張祭典について

地鎮祭や建て式・入居の清祓などは神職が現地に赴き執行いたします。この出張祭典につきましては、事前の予約が必要です。ご来社いただくか、お電話にてお問合せください。

初宮まいり

各種祈祷

- 安産祈願
- 家内安全
- 厄除け
- 商売繁盛
- 病気平癒
- 縁結び
- 交通安全
- その他

日本銀行兌換券

甲千円紙幣

終戦直後の昭和二十年に日本で初の千円紙幣が発行されました。この紙幣の図柄となったのが日本武尊の肖像画と建部大社です。発行枚数が極めて少なく幻の紙幣とされています。

【菊花石】

天然記念物の黒い石です。種類・花形の二種があるとされます。

【御神水】

琵琶湖より湧き出る霊水。毎年多くの方々が水を求めに来社されます。

重要文化財

女神像（平安時代）

日本武尊の御妃とされています。口元を袖で覆い、容易に姿を見せないという神の在り方を顕示されているのか、おしとやかな平安女官の印象が最大の魅力とされています。

文化財保護法指定
（詳細につきましては事前にご確認ください）

【願い石】

古来より当社に伝わる信仰のひとつ。石に願い事を書き、自宅に持ち帰ります。願いが叶ったらお礼参りを済ませた後に、願い石を奉納します。毎日開神前で、祈願成就の御祈祷を祈願いたします。

御由緒【官幣大社】

景行天皇四十六年神勅により、日本武尊の御妃・布多遅比売命が神崎郡建部の郡に、日本武尊の神霊を祭斎されたのが当社の始まりとされています。

その後、天武天皇二年（紀元一三〇〇年）頃に近江国の一之宮と定められました。歴代の武門武将からの御尊信篤く、なかでも平家に捕われた源頼朝公が伊豆へと向かう途中、当社に立ち寄り源氏再興を祈願されたと伝わります。以来、出世開運・除災厄除の神として崇敬される所以です。

御祭神

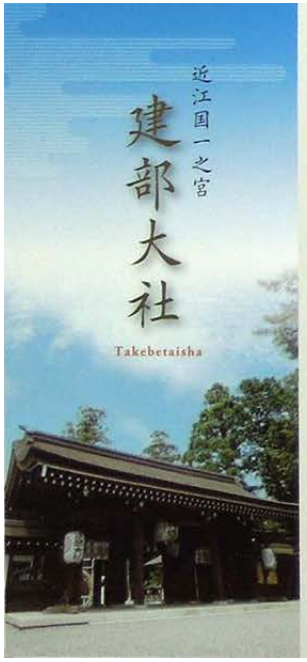
本殿　日本武尊（やまとたけるのみこと）

相殿　天照皇大神（あまてらすすめおおかみ）

相殿　大己貴命（おおなむちのみこと）（大国主神）

御祭儀

一月　一日　元旦祭
三日　元始祭
三日　節分祭
四日　新年祭
十七日　成人祭
四月　十五日　例大祭
六月　三十日　夏越大祓
八月　十七日　船幸祭
十月　十七日　秋穀祭
十一月　三十日　新嘗祭
二十六日　鎮火祭
十二月　三十一日　大祓式・除夜祭



近江国一之宮

建部大社

Takebetaisha

電車・バスの場合

・JR琵琶湖線　石山駅下車
・近江バスをご利用の場合
JR石山駅南口
瀬田石山線
瀬田駅ゆき建部大社前下車
野路駅ゆき建部大社前下車
・帝産バスをご利用の場合
JR石山駅南口
龍谷大学ゆき建部大社前下車
秋口ゆき建部大社前下車

自動車の場合

・名神高速道路をご利用の場合
大阪方面から　瀬田西IC より3分
名古屋方面から　瀬田東 IC から5分

ルートマップ

瀬田西ICより　瀬田東ICより

カーナビ検索には電話番号が便利です。
077-545-0038

近江国一之宮
建部大社
たけべたいしゃ

〒520-2132　滋賀県大津市神領1丁目16-1
TEL 077-545-0038　FAX 077-545-2438
E-mail info@takebetaisha.jp
建部大社 HP http://takebetaisha.jp/

ヤマトタケルと白鳥伝説

大和を目指す途上で日本武尊は何をつくっては戻れをつくっていました。ある村に来ると、村人が「東に向かり国に鍋のようだ」と戒めたことからその地は「鍋」といわれるようになりました。更に休憩を要した日本武尊は、「大和への望郷の思いが募っていきます。日本武尊は国見びの歌を詠みます。「倭は国のまほろばたたなづく青垣　山隠れる倭しうるはし」そして、愛した妻を懐かしみながら尽き倒れてしまいました。命に従る日本武尊の御陵から白い大きな鳥が天へ舞っていました。日本武尊は白鳥となって悲しい故郷へ帰っていったのです。後にその白鳥が飛んで留まった河内の国の志紀に御陵が作られ、「白鳥の御陵」と呼ばれるようになりました。

抜厄守

ヤマトタケルと伊吹山の神

西国に従う熊襲国を平定した、足柄国に従ってきた日本武尊は、以前相模の約束をしていたミヤズヒメと結ばれます。しばらくの間は共に過ごしていましたが、伊吹の山に向かう時のために、相模・上総国を通り、陸奥へと向かいました。ミヤズヒメは、「これは山の神の使いだな。帰り道で相手になってやろう」ときっぱり言って威嚇しつかり過ごしましたが、すると突然激しいみぞれが降り出し、行く手をはばまれます。実は山の居る山の神の使いではなく、山の神そのものであり、日本武尊が威嚇したための怒りをかったのです。大和を目指します。兼老の術を講じるときには、「今は暫くこどもまままならず、足がくだされて、ぬ、と、歌がおれました。後にこの野原は多賀野といわれるようになりました。

病気平癒御守

后・オトタチバナヒメの入水

駿河の国から東に東の浦賀へ入った日本武尊は同行していたオトタチバナヒメが、「私が荒ぶる海を鎮めましょう。御子は任務を遂に果たしてください」といって、自ら荒波に身を投じたのです。すると、たちまち荒れた海は静まり、無事に対岸に着くことができました。やがて東国討伐を終えた日本武尊は足柄山の頂上に着いたとき、海を望みながら熊野になったオトタチバナヒメを思べて「わが妻よ」と呼びかけます。それから、この地は「吾妻」といわれるようになりました。この伝説神を船で運まれた故事に基づき、現在も毎三月祭の一つである船幸祭が八月十七日に斎行されています。

御守護守

ヤマトタケルと草薙の剣

西国討伐から戻った日本武尊は休む間もなく関東征伐を命じます。道中、伊勢神宮に立ち寄り叔母のヤマトヒメは護身用の草薙の剣を授けます。ヤマトヒメは、「剣は、天皇家の剣で、敵に大きな力を与えるものです。相手の剣を奪い、敵に向かって放ちなさい。」と言って、草薙の剣を渡しました。いよいよ、東国へ向かう日本武尊は、足柄国に入ると、「敵は大和に帰ることを企んでいます。」と言って、野の火を放ちました。日本武尊は、ヤマトヒメから授かった神剣で草を切り、難を逃れました。相模国に着いた